

平成 30 年仕事始め式 挨拶

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで仕事を始めるにあたりまして一言挨拶申し上げます。

島根大学では大学改革を精力的に推進し、一昨年の大学院教育学研究科の改組と医学系大学院看護学博士後期課程の設置に続き、昨年4月に本学6番目の学部として「人間科学部」を設置しました。併せて、地域包括ケア教育研究センターとエスチュアリ研究センターを設置し、特色ある教育、研究の機能強化に取り組んできました。また、今年4月には生物資源科学部及び総合理工学部の改組、及び両研究科を統合して自然科学研究科の設置が認可され、また、数理・データサイエンス教育研究センターや地域未来協創機構の設置が予定されるなど、全学的な組織の見直しを推進し、新たなステージに向かって着実に歩みを進めています。様々な厳しい環境の中で、各部局そして教職員一体となった取組により、大学改革が進み、成果が挙っていることにつきまして、皆さまのご協力とご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、全国の国立大学においては「持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学へ」と変革すべき第3期中期目標期間が昨年度から始まり、中間審査まであと2年となりました。これまで実施してまいりました改革を基盤に、教育、研究における質的充実を図り、確かな成果を出していきたいと考えています。

高等教育機関、特に、国立大学に対する視線は厳しさを増しており、スピード感を持ったさらなる大学改革と教職員の意識改革が求められています。大学を取り巻く環境の急速な変化に対応していくためには、従前の方法や考え方だけでは適応できません。私たちそれぞれが、事態を深く洞察し、その本質を見極めた上で、柔軟な発想力に基づき将来を見据えて業務を行うことが不可欠です。また、新しい事態・困難に向き合い、これまでの殻を破るための新しい一歩を踏み出す勇気も必要です。私たち一人一人が意識を変革し、チャレンジ精神を持って島根大学の新たなステージを構築し、持続的に発展し続けるオンリーワンの大学を目指したいと考えています。

そのために、教育にあってはこれまでの伝統・文化を大切にし、学問の継承としての役割を果たしながらも、アクティブラーニング、アントレプレナーシップ教育やリカレント教育等の現代課題に積極的に取り組むと共に、海外派遣や留学生の受け入れ等を通じたグローバルな感性を持ち広く国際社会で活躍できる学生を育成していきます。また、地域志向教育や実践的カリキュラムを通じて、学修した専門知識・技能を社会や地域のニーズに適切に活かせる人材を育成していきます。また、研究においては教員個人の学

問的関心からの研究を基盤に、地域における課題解決を図りながらその問題の本質性を追究し、普遍的な課題解決につながる世界水準の研究の展開・発展をもって、国際的競争力を持つ特色ある研究を推進し、本学の存在感を地域や世界に向けて発信していきます。

島根大学が進む道は平坦とは思いませんが、教育、研究、診療の各領域で確立した強みを持ち、特色ある大学として、前を向きしっかり歩を進めてまいりたいと思います。厳しい状況ではありますが、地域をはじめ全てのステークホルダーの信頼にしっかり応え、誇りを持って学生が学び、教職員が働ける島根大学であり続けるために、チャレンジを続けていきます。

本年が島根大学にとりまして、また、皆さんにとりまして良い年になりますようお願いまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお祈りします。

平成 30 年 1 月 4 日
島根大学長 服部泰直